

目 次

建学の精神	4
上智大学短期大学部の卒業認定・学位授与の方針	5
上智大学短期大学部英語科の卒業認定・学位授与の方針	6
I. 基本事項	
1. 年間予定	9
2. 学生証と学生番号	13
3. 学籍について	13
4. 学費の納入	14
5. 個人情報の取扱いについて	15
6. 大学からの連絡 (Loyolaによる掲示) について	16
7. 教員との連絡について	17
8. 教員組織	17
9. アドバイザーについて	19
10. 各種問い合わせ先/窓口時間	20
11. よくあるQ&A	23
12. 本学の施設	24
II. 教務	
1. 履修の基本および授業	33
2. 履修登録	36
3. 履修中止	37
4. 試験	37
5. 成績評価	41
6. 単位認定	42
III. 英語科カリキュラムの特徴	
1. 教育課程編成・実施の方針	47
2. カリキュラムマップ	50
3. 英語科卒業認定・学位授与の方針と開講科目との関連	53
4. 特色ある学び—サービスラーニング	53
5. サービスラーニングとカリキュラムとの関連	54
6. サービスラーニングとアクティブラーニングとの関連	55
IV. 開講科目と履修上の注意	
1. 授業科目の構成	59
2. 卒業に要する科目、単位数の最低基準	59
3. 標準配当表	59
4. 履修上の注意	60
5. ナンバリングについて	62
6. コース制度 (18年次生以前のみ)	63
7. 英語科卒業認定・学位授与の方針及び学修成果獲得の観点	65
8. 開講科目表	68
V. 講義内容 (シラバス)	75
英語科目	77
教養科目	252
基礎科目	316
専門科目	354
VI. 資料	
1. 沿革と年譜	489
2. イエズス会	490
3. Campus Ministry	490
4. 上智大学短期大学部学則 (抜粋)	491
5. 上智大学短期大学部学生懲戒規程	498

《上智の精神》

「上智」という名称は、伝統的なカトリックの祈り「聖母マリアの連祷」の中の一句である「上智の座」に由来し、「最上の叡智」を意味しています。

また、校章の鷲は真理の光を目ざして力強くはばたく鷲をかたどったもので、その姿は上智大学の本質と理想とを表わしており、中央にしるされた文字は本学の標語「真理の光」Lux Veritatisの頭文字です。

上智大学は、海外では早くからソフィア・ユニバーシティの名で親しまれてきましたが、このソフィアはギリシャ語のΣΟΦΙΑからとったものであり、それは「人を望ましい人間へと高める最上の叡智」を意味します。この叡智こそ本学が学生に与えようとする究極のものであり、本学の名称“上智”（SOPHIA）にほかなりません。

私たちは、激動する現代世界に向かって広く窓を開き、人類の希望と苦悩をわかちあい、世界の福祉と創造的進歩に奉仕することを念願します。

《教育理念》

上智大学短期大学部は、上智大学の女子教育への関心に応える形で設置されました。

上智短期大学（現上智大学短期大学部）設立準備委員長であり、初代学長として本学の基礎を築いたジェラルド・バリー師は、本学で学ぶ女性たちに時代を越えて以下のように語りかけています。

『上智短期大学の教育は、キリスト教ヒューマニズムに基づいています。その基礎の上に立って、専門分野の徹底した学習を行うばかりでなく、カトリシズムの精神を生かした人間形成を目指し、豊かな教養と円満な人格を備えた女性の育成を第一の目標とします。

また、姉妹校上智大学と同様、東西文化をつなぐ役割を第二の目標としています。そのため本学も国際性あふれた教授陣を用意しており、学生は、この雰囲気の中で、おのずから広い視野と国際感覚を身につけることができるでしょう。

この二つの目標のほかに、学生は、英語で学びながら、Language Spiritを把握するよう努力することが求められています。その努力を通じて学生ひとりひとりが自己を発見し、人間性をいっそう豊かにすることができるでしょう。』

（出典：昭和47年「新設上智短期大学の案内」）

バリー師の意思を継承した本学の教育は、《上智の精神》に共鳴し実践していく志を涵養するとともに、幅広い知識と多くの人脈、深い愛情と強い信念の陶冶により、この教育理念を実現することのできる女性の育成を目指しています。

上記の建学の精神をより具体化させた教育上の方針として、本学は以下に記す「3つの視点」と「3つの能力」を定めています。

< 3つの視点 >

(1) キリスト教ヒューマニズム

「人間教育」を掲げる本学は、キリスト教ヒューマニズムという視座から、言語、思想、文学、歴史、社会を考察し、その過程において「人間」への理解を涵養することにより、社会貢献の志を抱く人材を育成します。

(2) 英語発信力

「内容重視 (content based)」「自己発信 (self-expressive)」型の英語教育を通して英語の技能を向上させるとともに、言語の価値と運用の本質的意味を理解し、それを基礎に多様な分野の専門教育と人間形成をします。

(3) 国際性

言語教育を核として、歴史、文化、社会経済、国際情勢、地域福祉等、幅広い分野の専門教育を実施しています。さらに、地域活動の中での国際協力（サービスマーケティング活動）や、短期留学プログラム、そして本学の持つ国際色豊かな教育資源を活用することにより、地域レベルまで国際化が進む社会を実感す

ることができます。

< 3つの能力 >

(1) 教養力

学問領域の知識とともに、人や社会によって異なる信念や価値観を豊かに持つことです。さらに、自己と異なる考えを理解し、共感し、寄り添うことで他者や異文化間のギャップを埋めることができる能力を総じて教養力といいます。

(2) 言語力

異なる性質である「教養力」と「専門力」を媒介し、ヒューマンイズムの核となるものが「言語」です。本学では、国際社会の共通言語として広く使われる英語を通して母語にも共通する「言語力」を修得するとともに、幅広く深い教養力と専門力の涵養を目指します。

(3) 専門力

学問領域の知識を体系的に理解し、それを基に論理的に自らの考えを構築する能力です。語学、文学、哲学、修辞学、法律、経済、歴史、自然科学等、論理立てて継承していくことが可能な知識は、全て専門力といえます。

上智大学短期大学部の卒業認定・学位授与の方針

上智大学短期大学部は、建学の精神を具現化し、地球市民的意識を有し国際社会・多文化共生社会の諸問題に対応しうる者を卒業生として輩出していきます。即ち、本学で学業を修めた者は、以下に掲げる教養と専門的知識を備える者であり、同時に人間性の深い理解に立脚した、多様な他者と協働する力を備えることにより、国内外の国際社会・多文化共生社会に貢献できる態度、知識、技能を有します。そのような教養と専門的知識、人間観と協働力を備え、かつ上智大学短期大学部学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を科目群毎に修得した者に対し、本学は短期大学士（英語）の学位を授与します。

1. キリスト教ヒューマンイズムの理念のもと、人間の尊厳を深く理解し、他者との共存を実現できます

上智の教育の精神である「他者のために、他者とともに (Men and Women for Others, with Others)」のもとで、人間の生の尊さと生の在り方の多様性を理解し、異なる価値観や背景を持つ他者との共存を実現する意思と能力を備えることができます。

2. 人間と社会の理想の実現のため、知性をもとに責任を伴う決断と行動ができます

幅広く豊かな教養力を通して、人間が直面する問題や理想の本質について理解し、自らの主体性と責任感をもとに意見を発信し行動することができるようになります。

3. 多言語力による複合的な視点から、人間性と社会の持つ新たな可能性を発見できます

社会事象及び学問にかかわる問題を、多言語・多文化的な複合的視点から俯瞰し考察することで、人間と社会が持つ新たな可能性を引き出すことができます。

4. 複数の学問分野の学修から、新たな価値観を創造することができます

英語の学修、及び異文化、多文化共生、国際問題の研究で得た知識と、他者との共存を目的とする視点から新たな価値観を創りだすことができます。

5. 地球市民的意識を有し、グローバルな問題に取り組み、多文化共生社会の形成を担う力を身につけることができます

言語及び文化における多様性の肯定的な理解のもと、地球規模の課題と自分との接点を見出し、背景の異なる他者との対話と協働を通し課題解決に向かっていく力を持つことができます。

上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマニズムを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかがわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探求し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民的立場から多文化共生の理念を実践できる人材を育成します。

1. キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます

キリスト教ヒューマニズムの精神を、キリスト教倫理や哲学において理解し、そこで獲得した視座に基づき人間及び社会的現象を考察できます。そして、その精神の根底に在る人間の尊厳への敬意、他者愛、献身の心を深く理解するとともに、他者とのかかわりの中で自己形成を行い、人間関係、共同体を構築する力を備えます。

2. 学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます

大学での学びに必要な読解力、論理的文章構成力、発表力を身につけます。同時に人文・社会科学を中心とする幅広い教養を修得し、人間と社会にかかわる多様な事象を理解し、意見を発信する力を身につけます。

3. 自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます

英語を実践的かつ学術的に運用するために重要な主題として、(1) 自己形成と他者との共存、(2) 異文化・多文化、(3) 日本における社会問題、(4) 日本の問題と国際問題、にかかわる知識とともに、自己発信力に重点を置いた4技能(読む・書く・聴く・話す)を身につけることができます。

4. 専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます

異文化理解、英米文学研究、言語研究、言語教育、多文化共生、及び国際問題とかがわる分野の知識を獲得し、論理的、批判的思考に基づき、研究する力を身につけることができます。自律した学修者として課題を自ら設定し、それらに挑戦し続けることのできる意欲と技能を持つことができます。

5. 地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます

国際的な諸問題、そしてその背後にある文化、歴史、思想を、自らの生とのかかわりにおいて理解し、地球市民としての問題意識をもち、国内外における国際社会が抱える問題の解決、及び多文化共生社会の実現に向けた実践ができます。